

# ●ロカベンで現状を把握し、事業計画を策定・行動した結果、増収増益を果たす

## 企業側情報

- 商号 : 有限会社比企オプティクス
- 住所 : 〒368-0005 埼玉県秩父市大野原2364-1
- 業種 : 製造業
- 従業員数 : 10人
- 資本金 : 300万円
- 売上高 : —
- 代表者名 : 柳瀬 満邦
- URL : <http://hiki-opt.com/>

## 支援機関情報

- 商号 : 秩父商工会議所
- 住所 : 〒368-0046 埼玉県秩父市宮側町1番7号
- 業種 : 支援機関(商工会議所)
- 代表者名 : 会頭 西村 耕一
- URL : <http://www.chichibu-cci.or.jp/>

## ロカベン活用前の状態

### ●事業内容

当社は大口径の光学レンズ製造業であり、当社が対応できるΦ300mmの製造は、国内で他に1社あるかどうかという程度で技術力に強みをもっている。合わせて、当社の事業は、光学ガラスを製造するメーカーからの受注に限定し、ここから光学ガラスを預かって、レンズへと加工する作業であるため、在庫を持たないことも特徴である。



比企オプトグループは、昭和46年に創業した比企光学株式会社と平成17年に創業した有限会社比企オプティクスで構成。

### ●比企光学株式会社

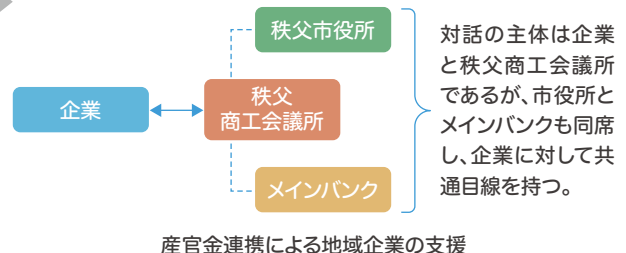
- ・光学レンズのプレス成形加工
- ・精密切削加工 (コネクタ部品)

### ●有限会社比企オプティクス

- ・光学レンズのプレス成形加工

### ●ロカベン活用の狙い

大口径光学レンズ製造の分野で高い技術を持つ企業であり、地域にとって重要な企業であるため、ローカルベンチマークを活用した対話により、当社の現状や今後の展開を明確にすべきであると考えた。また、地域の支援機関や金融機関も当社(およびグループ企業)の状況について共に理解しておく機会であると考えた。



## 対話の視点

先代である父親から事業承継した比企光学株式会社と、現経営者が立ち上げた有限会社比企オプティクスの2社についてどのような方向性で今後の事業を展開していくかといった将来の展望を確認しながら、現状とのギャップから生まれる課題を把握した。

## 対話結果

### 明らかにになったこと

#### 経営の強み

- ・コンパクトデジカメや医療用器具といった小型から、一眼レフカメラや防犯監視カメラといった中大型、産業用や天体望遠鏡に使われる超大型まで幅広いレンズの製造が可能。
- ・最大500mmまで対応可能な設備を自社で開発し導入。超大型レンズのニーズに対応すると共にその領域での技術開発を当社の強みとして確立すべく活動中。
- ・近年、退職者が出ておらず、従業員の定着率は極めて高い状況。
- ・定期的な配置転換と、受注時点で各工程担当を含めた打ち合わせが他の工程の理解を促進し、多能工化へとつながっている。

#### 経営の課題

- ① 切削事業拡大による高付加価値化【比企光学】
- ② 新たな高付加価値レンズ市場の開拓と技能承継【比企オプティクス】
- ③ グループ企業間における社内コミュニケーション体制の確立

### 対応策

- ① 加工精度の向上と量産体制の構築で新分野進出に挑戦【比企光学】
- ② 新市場開拓と生産プロセス革新の実現、技術力向上のための人材育成の実施【比企オプティクス】
- ③ グループ企業における定期的な打ち合わせ機会の確保

## 対応策の実施

### ① 加工精度の向上と量産体制の構築

#### ■ 高精度加工技術習得と生産ライン合理化による自動車分野進出

- ・ものづくり補助金を活用し、自動車部品加工の生産ラインを立ち上げ
- ・大径・高精度加工に対応できる旋削・ドリル・ボーリング加工機を導入と3次元測定器を導入
- ・ロボットアームによる搬出入で多台数持ちを実現（生産性向上）



旋削・ドリル・ボーリング加工機



3次元測定器

### ② 計画作成と生産プロセス革新、人材育成

- ・経営計画の立案に対しては、秩父商工会議所の支援により、経営力向上計画と経営革新計画の承認を受けるに至った。
- ・技術習得度の見える化については、秩父商工会議所からスキルマップに関する資料を提供し、まずは独自で自社の現状の工程や各工程に必要な技術を、スキルマップとしてまとめた。
- ・熟練技術を有する工程で計画的な人材育成を行い、多能工化を実現
- ・プレス成形における独自の温度管理技術の確立により大口径レンズ加工技術を習得

### ③ 打ち合わせ機会の確保

グループ企業への定期的な訪問・MTG 時間を決め、比企光学・比企オプティクス両社の従業員とコミュニケーションをとる時間を確保。

## 対応策実施後

## 効果

比企光学も含め、グループ全体で経営改善を進めた。比企オプティクスについては秩父商工会議所の支援もあり、多能工化や技術習得を実現し、高付加価値分野（望遠鏡や映写機等の特殊レンズ）の進出で売上や利益の拡大を果たした。また、当該市場は寡占市場で取引先も限られ、これ以上の成長を見込むのが困難であったため、新たに以下の点に取り組んでいる。

- ・既存製品の高付加価値化（研磨技術の導入）
- ・既存コア技術の転用で新分野進出を図る



## 経営者／支援者の声

### 経営者の声

自社の現状や課題そして未来の姿が、社外の方たちと対話することで、浮き彫りとなり、それが口カベンでレポートという形になるため、より明確になった。そして、自らの立ち位置をよく理解することで、どこで戦うべきかがはっきりした。今後も商工会議所、金融機関の力を借りて、競合や同業の情報を収集し対話を継続していくことで、更なる成長につなげていきたい。

### 支援者の声

比企オプトグループは秩父の中でも非常に元気な企業。柳瀬社長は若く行動力があり、非常に前向きに色々な物事を進めている。また、一方で走り過ぎになりそうな時は、今回取り組んだ口カベンのように、ふと立ち止まって考えたいタイミングで秩父商工会議所に相談していただける関係も築けている。秩父商工会議所はこれからも自治体や地域金融機関と連携し、継続して同社の成長を支援していく。